

【地域子育て憲章の実践】

子どもたちの見守り活動強化について

令和8年1月25日

鳴見台小学校区コミュニティ協議会

1. 地域子育て憲章の実践

鳴見台小学校区地域子育て憲章

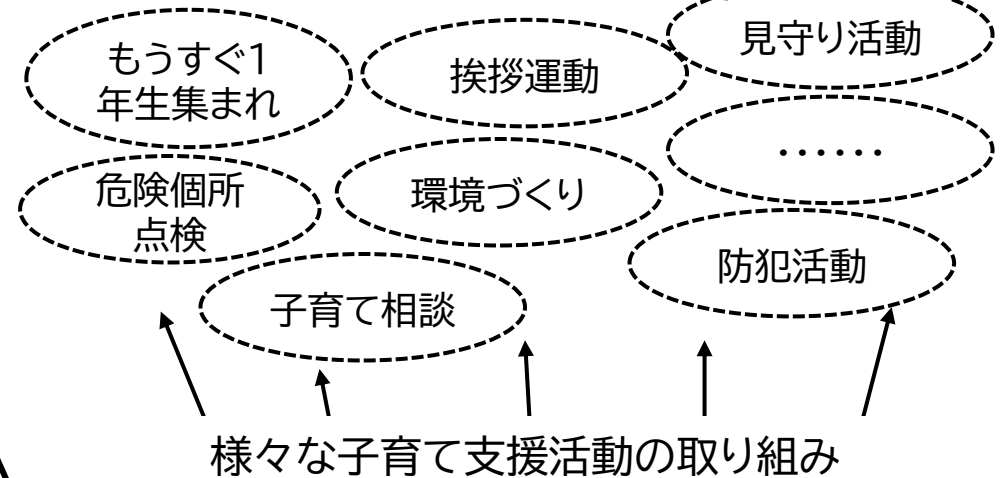
鳴見台小学校区地域子育て宣言

子どもたちには無限の可能性が 있습니다。その可能性を広げ健やかな成長のために、子育てをこの地域の共通課題として掲げ、望ましい子育て環境をつくり、子育てをみんなの力で支えていきます。

子育てしやすい地域の姿(目標)
8項目のめざす姿を設定

みんなで取り組む実践事項
8項目の実践事項を設定

今回のテーマ



地域の子育て力の向上

一人一人の意識、
行動が出发点

実践の核となる
人たちを増やす

人と人の繋がりを
強める

継続することで
地域の“分化”へ

2. 鳴小校区における子どもの見守り活動の概要

活動の主体	時 期	場所・時間帯	見守り人数	備 考
育友会 挨拶運動・豊 洋台バス乗車 見守り運動	1学期 (6/2～7/18) 2学期 (9/1～12/24) 3学期 (1/8～2/27)	小学校前 豊洋台車庫、豊洋台中央、 豊洋台南 (4か所)	それぞれ1～ 2名、計4～ 6名程度	朝のバス時刻は 7:10～7:40
長崎市自治振 興課 交通安全指導	通学時 土日休日を除 く毎日	小学校入口 バス停 (2か所)	それぞれ1名、 計2名	
民生委員、自 治会役員	随時			自主的に自治会役員、民 生委員さんが横断歩道等 で交通安全指導を実施
育成協役員取 り纏めの子ど もを守るネッ トワークパト ロール	毎月1回の当番制(4月 は休止。7月、12月は 皆で活動)	校区内(夏場:午後6時 ～7時、冬場:午前9時 ～10時)	7・12月:約 100人 他の月:約10 人～50人)	各団体役員の子どもやス ポーツクラブの子どもた ちも参加
少年補導員	毎月1～2回	校区内 19時30分～20時30分	3～9名	毎月1回は小学校区補導委 員3名、2か月に1回は中学 校区補導委員9名で実施

3-①. 議論の糸口:子どもたちの見守りに関する意見(豊洋台・抜粋)

◆ 行政への要望

- ① 豊洋台バス通りの横断歩道前後にハンプ(凸部)の設置をしてほしい。
- ② 豊洋台南、めだか橋バス停に横断歩道の設置を検討してほしい。

◆ 登下校時の見守り、交通安全指導の現状、問題点

- ① 育友会のバス停見守り、小学校前挨拶運動は、活動に参加する保護者としめない保護者がいる。
- ② 豊洋台は交通指導員がいない。車庫バス停の横断歩道には民生委員さんが対応。
- ③ 自治会役員で1年間実施したが、協力できる役員のみとなった。仕事しながらでは負担感あり。
- ④ 車庫バス停では、バス停で鬼ごっこ、競争してバス乗車、道路ぎりぎりでバス待ち、など危険な状況だったが、指導により整列してバスを待つようになった。

⑤ 問題点

△豊洋台車庫バス停前横断歩道

朝の時間帯に、子どもが立っているのにスピードを落とさない、停まらないなど危険な状況。

△豊洋台全域

育友会活動、自治会、民生委員での見守りは、ボランティア活動であり育友会や自治会でも負担になっている。協力してくれる人だけに負担がかかり限界、持続可能ではない。

⑥ 登下校時の見守り活動、交通安全指導への改善提案

●下校時の見守り活動ができていない。

●ハンプ(凸部)設置、横断歩道注意喚起等「ゆずるくん」の設置。

◆ その他

いろいろな活動が増えてきている中で、自治会活動や育友会活動が負担となっている。豊洋台は自治会加入が少ないなかで、活動している人たちは自分たちの時間を犠牲にして活動しているのが現状。持続可能な活動を考える必要がある。

3-② 糸口：子どもたちの登下校をみんなで見守るためのアンケート結果

1. 回答者 138名 年代:20～50代76%. 60代～7%

小中高生の子供がいる76% 職業あり81%

2. 困っていること、気になっていること(※)

高齢者や子供が犯罪・事故に巻き込まれないか52%

体調や健康不安34% 家事や買い物負担26%

3. 地域活動やボランティアについて(※)

あまり関わってない32% 無理しないで関わりたい30%

積極的に関わってる29% わからない・誘われない23%

4. 見守り活動は地域にとって大切か

とても大切65% まあ大切32%

5. 現在の見守り活動について感じていること(※)

交通事故や不審者心配、活動に感謝59%

活動する人の負担が心配49% 同じ人が頑張る40%

感謝やねぎらいもっと38% 支える仕組み必要 35%

見守りする人増えたら安心31%

※ 複数回答可

6. 登下校の見守り活動に関わってみたいか

興味あるが今は困難49% 時間など条件合えば32%

関わるつもりない12% 関わりたい・参加してみたい3%

7. 関わりにくいと感じる理由は(※)

朝は仕事等で忙しい80% 夕は食事等で忙しい56%

続けられるか心配21% 体力面・長時間は無理15%

雨・寒・暑が辛い15% 相談先・何するかが不明15%

8. できそうと思う関わり方(※)

呼ばれたとき、イベント時など59% 月1～2回26%

登校時20% 下校時10% 朝散歩途中バス停等7%

週1回位なら6%

9. できそうと思う活動内容(※)

在宅見守り42% 横断歩道の安全誘導28%

バス乗車時指導27% 環境整備・危険箇所点検24%

イベントサポートなど15% 通学路を歩いて見回り13%

3-③ 糸口：アンケート結果から見えてくるもの

鳴小地区の概要： 3,000世帯、人口7,500人（～14歳：1,400人19%、15～64歳：4,100人55%、65歳～：2,000人26%）

1. **回答者：** スマホでの回答としたこともあり、現役年代の回答が多く、高齢者が少なかった。関心のある人が多く回答と想定。
2. **困っている、気になっていること：** 高齢者や子どもが犯罪・事故に巻き込まれないか、が最も多く52%。後は個人的事項。
3. **地域活動・ボランティア：** 関わってない、積極的に関わっている、がともに3割前後、無理しない範囲で関わりたい人も3割。
4. **見守り活動は大切か：** ほとんどの人が大切と認識。
5. **現在の見守り活動への認識：** 交通事故や不審者が心配で見守り活動に感謝している人が6割を占め、特定の人が活動を支えている現実やそういう人達の負担への気遣いも多く、感謝やねぎらいがもっとあっていい、みんなで支える仕組みづくりが必要、見守りをする人が増えたがいいとの意見も多い。活動への地域の理解は高く、感謝、ねぎらいの気持ちも。
6. **登下校の見守り活動への参加：** 興味はあるが仕事等で今は難しいという人が半数、条件が合えば参加したい人が3分の1、わずかだが積極的に参加したい人もいる。見守り活動への参加意向は高い、参加条件を整えることが必要。
7. **関わりにくい理由：** 朝、夕は仕事や家事等で関わり難いという人が圧倒的に多い。続けられるか心配、体力面や長時間は無理、雨・寒・暑が辛い、相談先・活動内容が不明、という理由も一定数あり、具体的な活動内容の周知をすることで理解者が増えるのではないかと。
8. **できそうと思う関わり方：** 呼ばれた時・イベント時などが6割、そのほかに月1～2回、週1回なら、登校時、下校時、散歩途中なら、等も一定数ある。参加意思のある人が選択できるよう複数の参加形態（回数や時間帯など）をつくることが大事。
9. **できそうと思う活動内容：** もっともやりやすい在宅見守りが4割、このほか1～3割の人が横断歩道の安全誘導、バス乗車時指導、環境整備・危険箇所点検、イベントサポート、通学路を歩いての見回り、と答えている。活動内容の具体的な提示が大事。

4. 話し合ってみよう

1. 子どもたちの見守り活動について現在の問題・課題は何か？

- 困っていること、心配なこと、不満なこと
 - 子どもたちにとって危険なところ、好ましくない状況
 - 見守り活動の手薄なところ
- ...

2. 子どもたちの見守り活動をどのように強化するか？

- 現在の問題・課題をどう解決するか
 - 登下校時や日常の見守り活動をどう組み立てるか
 - 見守りボランティアをどうして確保するか、そのための要件整備
 - 多くの人が見守り活動に参加しやすい仕組みとは
 - 豊洋台、光風台間の地域間連携、学校関係団体連携の在り方
- ...